

凡三心者。還欣淨顯行。領解機行身土心他。此心離三福行不起。三福行離此心不成。

〔西全〕五、二九五頁下

と言う。一見して念仏の行を忘れたかのごとく見える。しかし、証空は続けてこの心を、「成心体。同顯弘願一行」と言っているのであり、三福正因とは言ってもそれは弘願の一行に帰すものであることを明示している。

この心と行の関係は、のちにまた触れることになろう。

#### 第五項 領解の心と三心

三福は三心によって正因となつた。それでは三心はいつ起こるかということが次に問題となる。証空はその著書に領解という名目を出して解釈するのである。領解とは『観経』における韋提希の領解を言うのである。『他筆鈔』卷上に次のように言う。

云正因韋提領解心也。此心就定善所顯也。定善立領解。入此領解心即散善名觀也。觀者即領解心也。領解心者三心也。三心即正因也

〔西全〕五、二五九頁上

すなわち領解の心とは観であり三心である。『同書』巻中にも「三心領解一心也」(『西全』五、三三二頁上)と表現する。

安心の項でも述べたように証空はこの領解の心を会得した時点においてその行、換言すれば三福が正因へと転換されることを強調するのである。その象徴的な解釈は『他筆鈔』巻上にある。

領解心発後。無行所嫌云三心既具無行不成等故。仍領解心所也善。云真  
実心中作一也。真実心者領解心。領解心者捨自力歸他力一心也

(『西全』五、三〇四頁上)

このように領解の心とは他力に帰すことであるとして、その心を発したあとは嫌う行はなくなるという。さらに正雜二行を説明して、

云自余雜行一殘。第三心。云許助業得生意。且此分正雜一積。雖可回  
向得生也。三心。一領解心意得時。云何殘五種正業外。別有雜業哉。上出觀  
經可知。云諸行歸入正行也。明也

(『西全』五、三二六頁下)

と言い、回向すれば諸行も正行となると言うのである。しかし、これをそのまま受け取れない次のような問題が提示されるのである。